

まちづくり市民ワークショップ《第1回分野別「活力」「協働」》 ニュース

日時：平成 28 年 12 月 10 日(土)9:30～11:30

場所：加東市社公民館 2 階 研修室

◆ 次 第 ◆

- 1 開会
- 2 加東市の現状等について
- 3 ワークショップ
「加東市の良いところ、良くないところ」について
- 4 今後のスケジュールについて
- 5 閉会



当日の会場の様子

第1回分野別「活力」「協働」のワークショップには、14人の市民等の皆さんに出席していただきました。

◆第1回分野別「活力」「協働」のワークショップの内容

- ワークショップに先立ち、事務局から、加東市の現状について説明を行いました。
- 加東市の現状についての説明の後、ワークショップ方式で、加東市の「活力」「協働」分野における「良いところ」「良くないところ」を考えていただきました。
- 参加者は2つのテーブルに分かれて意見をまとめ、最後にそれぞれのテーブルの意見を発表しあって、情報交流を行いました。
- このワークショップで考えていただいた結果は、次回の分野別「活力」「協働」のワークショップにおける分野別将来像（まちづくりの目標）の検討のための材料としていただきます。

◆ワークショップ

- ワークショップでは、最初に前回の振り返りと今回の取組について確認しました。
- そして、ワークショップの進め方の説明の後、「活力」「協働」分野における「良いところ」「良くないところ」を、KJ法という手法を用いて次のとおり整理していきました。
- まずは、参加者全員が「良いところ」を黄色の付箋紙に、「良くないところ」を赤い付箋紙に書き込み、模造紙に貼り込みながら、意見交換（共有）をしました。



○テーマは「活力」「協働」ですが、その枠にとらわれず、幅広く関連する「良いところ」「良くないところ」を出していただきました。

○これらの付箋紙を、同じ内容でグルーピングして、タイトル付けをすることにより、グループで話し合った「良いところ」「良くないところ」を整理しました。

○そして、発表する人を自薦、他薦で選び、別のグループに話し合った結果を報告し、意見交換（共有）を行いました。



◆ワークショップの結果発表（「活力」「協働」分野における「良いところ」「良くないところ」） Aグループ

「活力」等の良いところ

《農業・山田錦等》

- 「山田錦」ブランドを活かしたまちづくりができる
- わかりやすい特産（山田錦等）がある（酒はなじみがある）
- 農業しやすいまち
- 山田錦・三草茶うどんがある（それ以外の加東市独自の新名物・商品を作り出す必要がある）

《自然》

- 山が多く、緑が多い
- やしろの森公園において自然体験教育（県）がある

《観光》

- 東条湖周辺に観光地等（子育て世代：東条湖おもちゃ王国、若者：東条湖でのバスフィッシング）がある→PRが必要

《その他》

- 飲食店が多く、わかりやすい

「活力」等の良くないところ

《農業・自然》

- 農地や公園において獣害（イノシシ、シカ、キツネ、アライグマ）が多い
- まち並みづくりに関して、豊かな自然の保全が遅れている
- 森林の伐採による問題（太陽光発電等設置）がある

《交通等》

- JR の最終便が早く、本数が少ない
- 子育て世代にとって公共交通が貧弱である
- 高齢化に向けての対策としてバス交通が不便である
- ネット社会を活用した市外や遠方の人が加東市で働く環境がない

《観光》

- 目玉となるようなスポットがない



〈今後の課題〉 市観光協会や観光事業者（地）と市との関係強化

「協働」等の良いところ

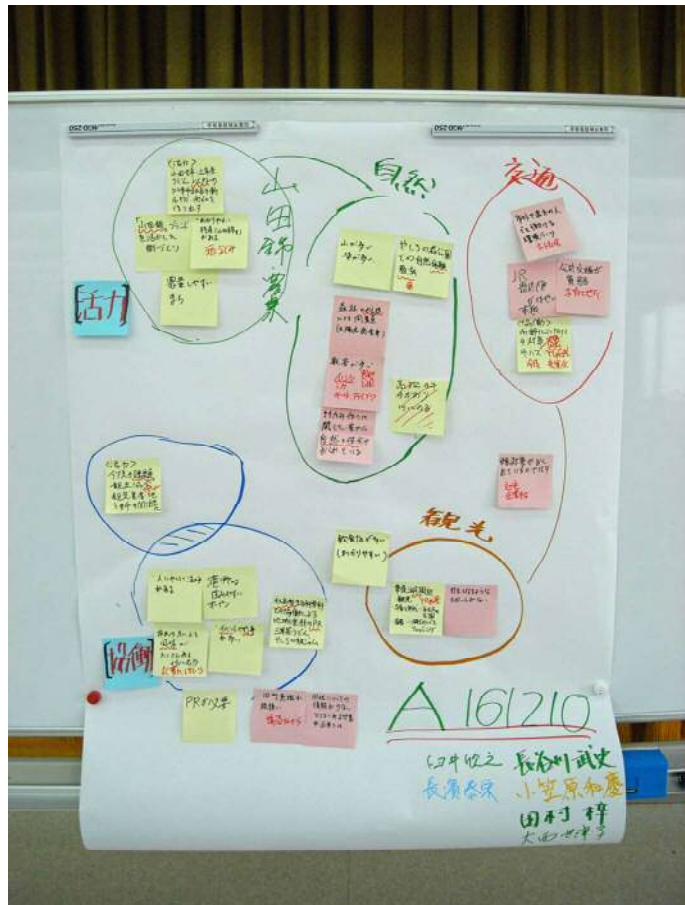
《協働等》

- 人に優しさ、温かみがある
- 滝野はオープンで住みやすい
- 市民の方による団体がたくさんあるように思う
- 社高校生活科学科との協働により、地域食材（三草茶うどん、やしろの桃ジャム）がPRされている

「協働」等の良くないところ

《協働等》

- 旧町意識が根強い
- 団体についての情報が少ない（とりまとめる部署が必要ではないか）
- 空き家対策が遅れているのではないか
- PRが必要



B グループ

「活力」等の良いところ

《住みよさ》

○便利なまち、住みやすいまちである

○図書館が充実している

○新しいお店ができている

《自然》

○公園が多い

○広い公園など、広い空間がいっぱいある

○自然の豊かさがある

○素晴らしい山がある（活用されていないが）

○登山ができる

○釣りができる

《地域資源》

○音楽のまちである

○東条文化会館コスミックホールで木管コンクールが行われている

○温泉がある

○観光産業では、外部から見た加東市の魅力的な材料がある（要活用）

○忠臣蔵のまちである

《農》

○有名な山田錦を生産している

○滝野なす、山の芋、やしろ茶などが有名

○やしろの桃が有名

○無農薬の野菜づくりに取り組まれている（主婦の皆さん のボランティアで）

○野菜はふれすこ社店が人気（個人名で出品されており安心）

○誇りをもって農業をやっている人がいる（収益というよりも）

○山田錦のまちである

《交通と工業》

○まちなかは信号が少なく走りやすい

○交通の便が良い（道路がよい）

○街に出やすい（高速を使って大阪・神戸へ）

○大阪に近い

○パナソニック、凸版印刷など大手の工場が立地している

○工業団地が人口維持につながっている

「活力」等の良くないところ

《住みよさ》

○古くからの商店や商店街が減っている

《自然》

○ソーラーパネルの設置については、エネルギーのためにはなるかもしれないが、自然がなくなる

○森林の保全が必要

○川が活用されていない（水に癒されるという意味）

《地域資源》

○特長を生かしきれてないまちである

○地味なまちである

《農》

○農業者（農業経営）の立場からは難しい面もある

○農地の減少や農家が減少するなかで、農業の高度化をどのように図るかが課題

○イノシシやシカの被害（獣害）をどのようにするのかが課題

《交通と工業》

○コミュニティバスがない

○生活には車が必要

○交通の便が悪い（公共交通が弱い）

○国道 175 号を通過してしまう（地域に定着しない）

○企業誘致に不利

○自転車で安心して走れる道がない

《PR》

○四十七士の 1 人である吉田忠左衛門（加東市にゆかり）を知らない人もいる

○加東市の知名度が低い

○PR ができない、PR や情報発信が下手なまち

○市の PR が必要

○市民の誇りとしての PR が大切

○加西市の「根日女（ねひめ）」のような小学校からの郷土の歴史の植え付けも必要





「協働」等の良いところ

《子ども見守り等》

- 子どもの見守り隊の方が下校時に危ないところに立っていてくださるだけで安心感が違うし、防犯にもつながっている
- 他地域からの移住者にも優しい

「協働」等の良くないところ

《コミュニティ等》

- 町内会が硬直化している（人の意見を聞かない人がいる）
- 外部から入ってきた人に町内会等の説明が不十分
- 人権が守られていない
- 結びつきを強める仕組みがいる
- ボランティア活動が活発に行われていない
- 近隣自治体では、ボランティアで石切り場の保全、山の道の掃除などをしているところもある
- ゴミ捨てが不便で、缶、瓶、産業ゴミの回収が月1回しかない

◆次回（第2回分野別ワークショップ：「文化」「安心」分野）の予定

日時：平成28年12月22日(木)19:30～

場所：加東市社公民館 2階 研修室

内容：「文化」「安心」分野における加東市の将来像（まちづくりの目標）について

発行：まちづくり市民ワークショップ事務局（加東市協働部企画協働課）

電話 0795-43-0389

E-mail suishin@city.kato.lg.jp